

平成29年度会報

会報第 18 号

平成 30 年 2 月 15 日発行

一般社団法人鹿児島県中小企業診断士協会

〒890-0046 鹿児島市西田 2 丁目 20 番 26 号 401

TEL・FAX 099-258-1871

e-mail : sindankagoma@coda.ocn.ne.jp



翁すでに決するところあり。諸士を卒いて城山を下る。弾丸雨下半ば途に殞る。
翁ついに岩崎谷口の砲壘を擁して（晋ドン、晋ドン、もうここらでよか）自刃す。年 49 歳。

《 目 次 》

(会員寄稿:掲載順不同、敬称略)

☆新春のご挨拶 . . . 会長 田中 博道

☆年頭雑感(昨年を振り返って) . . . 黒坂 和民

☆「47都道府県制覇しました!」. . . 岩元 耕児

☆鹿児島に想う . . . 奥 浩昭

☆あいさつ . . . 菊池 慎吾(平成29年度新入会員)

☆支援助言研究会の立ち上げ . . . 鮫島 省吾

☆あいさつ . . . 山口 肇(平成29年度新入会員)

☆入会の経緯と入会初年度の活動について(振り返り) . . . 東園 深水

☆どうせ通るのなら、陽気にと、一筆 . . . 月野木 勝彦

☆XMind活用のすすめ . . . 福岡 正人

☆ . . . 瀬戸口 晴子

ついに開設!(一社)鹿児島県中小企業診断士協会 公式サイト

成功!「中小企業パワーアップトークKAGOSHIMA2017」

☆サッカー三昧 . . . 副会長 浦島 和衛

新春のご挨拶

会長 田中 博道

あけましておめでとうございます。旧年中の一般社団法人鹿児島県中小企業診断士協会へのご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに心より新春をお慶び申し上げます。

会員および関係各位の今までにも増してのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年は我が鹿児島県の偉人さん達が他県の偉人さん達との連携・協力をするなかで成し遂げられた明治維新から 150 年になります。

話は変わりますが、ある事情で成年になってから鹿児島の名家の養子にならなければならなかった、お方からのお話を聞く機会がありましたので申し述べてみます。

そのお方は、数十年前の事です、鹿児島の名家の養子になられる前に、明治維新前後の日本や鹿児島の状況を東京の知人に聞かれたり・聞かされたり、自分でも各種の資料等を調査・研究されたのですが、明治維新を成し遂げた“鹿児島とは”との思いが強くなり、実地検分したく鹿児島に来ました。

鹿児島は高下駄を履いた武者のような格好の人たちが闊歩しているのではと、ある意味期待されていたようですが、都会と何ら変わらない背広を着たサラリーマンしか目には映らなかったとの事でした。

そこで、人伝えに聞いた南州神社へ行ってみれば「・・・」と期待して行ってみた所、「キエィ-----」とかん高い・大きな掛け声で剣道（示現流）の稽古をしている子供たちが居り、その子供達を指導されておられた年配の方がおられたので、そのへんの事情を聞かれたところ、

その年配のお方曰く

「もうおいやらんとお、 10 年のせんそでみんなけしんみやったでなあ——」





城山の薩軍陣地跡（10年のせんそ）



明治10年(1877)9月19日から同24日未明に至る6日間、この洞窟で起居した。薩軍と政府軍との城山攻防戦という西南戦争の最終段階において、政府軍の城山包囲網の中、西郷隆盛はこの洞窟で最後まで薩軍の指揮をとっていた。



年頭雑感（昨年を振り返って）

黒坂 和民

あけましておめでとうございます。

元日の鹿児島地方は穏やかな晴天に恵まれ、平成元号最後となる節目の年を迎えることができました。

改めて昨年度を振り返ると、政治、経済、社会面で多くのニュースが提供されたが、国民の最大の関心事は、肉親暗殺、核実験、ミサイル連射と間断なく話題を提供した北朝鮮問題にあったといえる。今年の世相を代表する漢字一文字として「北」が選ばれた所以である。

国内政治面では、学園騒動に揺れ支持率低下にあった安倍政権が、騒動鎮静化を意図した解散総選挙に勝負を賭け、想定外の敵失で大勝利し長期政権が維持されることとなった。一方、劇場型演出で大衆迎合による野望達成を計った政治家の器が見直された一幕でもあった。

経済面では、政治の安定と好調な世界経済を背景に、大企業を中心とした企業業績が好調で2%の実質経済成長率が達成され、株価はバブル崩壊後最高値となった。一方、産業面では、ものづくり日本を代表する名門企業の不正行為が相次ぎ露呈し、高品質と信用で世界から信頼された日本ブランドのイメージを大きく損なう不祥事が発生した。皮肉なことに偽装大国と揶揄してきた中国製品が今や多くの産業分野でシェア一世界一となっている。

社会面では、将棋界に若干14歳の天才少年が登場しデビュー連勝記録を更新、加えて羽生善治氏が前人未到の永世7冠を獲得、空前の将棋ブームが日本国中を席捲した。又、時を同じくして、囲碁界でも井山裕太氏が2度目のグランドスラムを達成、羽生、井山両氏の快挙は国民栄誉賞の受賞となった。

スポーツ界では大相撲で横綱引退につながる不祥事が発生した。現役横綱の軽挙妄動と立場を見失った元名横綱が自から名誉を傷つける大事件に発展した。日本大相撲界の現状は、幕内の役3割をモンゴル出身力士が占める一大勢力となり、その頂点に立つ横綱白鳳の傲岸不遜な言動が問題視されている。国技の面目にかけ、日本人力士の奮起が待たれるところである。

その他の話題として、競馬界で伝説の名馬が誕生した。歌手北島三郎氏の持ち馬（キタサンブラック）が、史上4頭目となる“G1”7勝目を賭けた引退レース有馬記念に見事勝利を収め花道を飾った。

2018年の世界情勢は昨年同様、北朝鮮とトランプ大統領の言動に振り回される懸念が大きいと感じている。又、経済、産業面はAIによる第4次産業革命の進化で大きく変化し、国内景気は拡大するが大方の予想となっている。その一つは、キャッシュレス社会の到来である。仮想通貨ビットコインの普及がデジタル

決済の促進を早めると言われている。スマホ人口は世界で 24 億人に達し、既に韓国では 9 割がカード決済となり、中国、インド等、アジア圏内で急速に普及している現状である。

国内企業の当面の課題は経営の効率化、人手不足対策であり、解決策として AI の活用、働き方改革を進めていくことが求められている。又、中小企業においては後継者不在による事業承継問題が深刻となっている。

鹿児島県は明治維新 150 年の節目の年である。NHK 大河ドラマ「西郷どん」の放映も追い風となり国内全域に薩摩旋風が吹き貫けることを期待したい。尚、観光関連産業に止まらず、全ての分野で成長の起爆剤となる事を願いたい。

世界情勢は、北朝鮮、中東問題、トランプ政権の動向に加え、中国の霸道政策、ヨーロッパ情勢、信義を欠く韓国と不安要素も多く、先の見えない状況にあるが、平和こそ全人類の願いである。

末筆となりましたが、本年が同志の皆様にとって健康で躍進の年となりますことを祈念致します。本年もよろしくお願い申し上げます。



最近、枕崎市で発見された“西郷どん!?”と言われる肖像画（作者不詳）

「47都道府県制覇しました！」

岩元 耕児

私事のつまらない話で恐縮ですが、昨年12月に日本全国の各県を訪れるという形で「**47都道府県制覇**」をようやく達成いたしました。

0歳で鹿児島県に生まれてから**65年目での達成**ということになりました。

「その県に行った」という条件は特にはないのですが、単純にその県を通過したというだけではカウントしないということぐらいで、人によってカウント条件が違うかもしれません。私がその県に行ったという理由を並べると多分圧倒的に多いのが①「業界団体や仕事上のいろんな組織グループの**会議や研修、全国大会**などへの出席」のためです。そして、②「**通常の仕事**」③「**旅行**」④「趣味である**郷土玩具収集**のために出張や旅行のついでに足を伸ばす」などです。

平成28年8月に、CRC（企業再建・承継コンサルタント協同組合）の役員会並びにセミナーが山形市で開かれまして、初めて**山形県**を訪れましたが、この時が**45県目**です。64年目で初めて山形県に行ったのですが、翌年もたまたま山形に行く用事がありました。そして平成29年11月にブレインネット（弁護士さんなど士業の集まり）の研修旅行で、**46番目の三重県**に行くことができました。

さらにその12月に再びCRCの全国大会・総会（CRCの行事は必ず再生業務を行っているホテル・旅館が会場になります）で、初めて**新潟県**を訪れ、**最後47番目の県**の訪問となった次第です。47都道府県制覇といっても、意識してつぶしていったわけではなく、全くの自然体で65年かけて結果的にそうなったという感じです。

65歳になって人生の残りもそう長くないので、今年からまた何か簡単に達成できそうな目標でも立てたいと思っております。



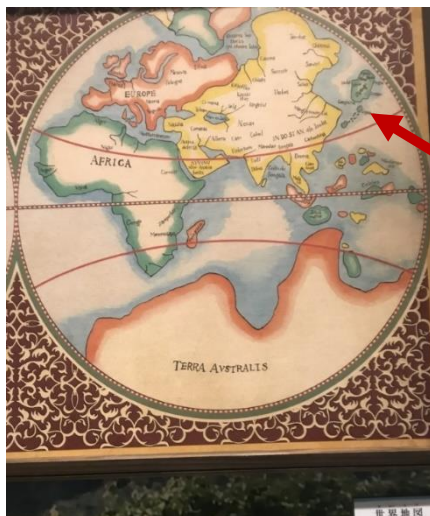
左は二人のモデルに基づく「西郷どん」 前頁の西郷どんとどっちがよかにせ!??

鹿児島に想う

奥 浩昭

今年は、明治維新150年を迎え大河ドラマ「西郷どん」の効果もあり、鹿児島が脚光を浴びています。明治維新から日本の近代化に尽力された数々の偉人が1つの部落から輩出されたことは、薩摩独自の郷中教育より形成された薩摩文化の賜物ではないかと思います。「戦略は組織に従う」と言われるように企業経営においても組織により形成された組織文化が経営戦略に影響を与えます。そのような意味で、鹿児島を成長・発展させる上で薩摩文化は重要な源になり得ます。先人の築かれたこの薩摩文化を大切に企業の経営支援に携わりたいと思っています。

以上



鹿児島（薩摩）はこの辺

明治維新頃の世界地図

会員の皆様、はじめまして。2017 年末に入会した菊池慎吾と申します。
神奈川県出身で、診断士登録は 2016 年 10 月です。2016 年 9 月に妻の仕事の都合で種子島の南種子町に家族 5 人とウサギ 1 匹で引っ越し、それを機に個人事業主として開業しました。
それ以前は主に国際協力・国際開発業界で仕事をし、アフリカに併せて 10 年ほど住みました(セネガル、ルワンダ、チュニジア、コートジボワールの 4 ヶ国)。
現在は家事・子育てをしつつ、短期の海外出張などでコンサルタントとして働いております。クライアントは国際協力機構(JICA)、アフリカ開発銀行、国際協力 NGO など、業務に応じてアジアや中東、アフリカの国へ出張します。
中小企業診断士の勉強を始めたそもそものきっかけは、発展途上国の民間セクター支援に役立つ知識を得たいと思ったからです、いま縁があつて鹿児島県に住む機会をいただいたので、微力ですが、地域の中小企業支援や産業振興にも役に立てればと考えております。
今後先輩診断士の皆様にご指導・ご助言等いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

菊池

支援助言研究会の立ち上げ

鮫島 省吾

2017年7月より協会内の有志の皆様と一緒に支援助言研究会を始めました。
今回は、本研究会を始める事になった私的な経緯について述べさせていただきます。

私は2013年4月に中小企業診断士の資格を取得しました。当時、ソフトウェア開発企業のサラリーマンでソフトウェア開発や間接業務（業績管理、事業所管理、採用、人材育成、品質管理）の経験はありましたが、診断助言の経験はほとんどありませんでした。そんな経験のほとんどない私でしたが、田中会長の後押しをいただき、2015年後半から専門家派遣、経営改善計画策定等の業務をさせていただくようになりました。お手本は田中会長の報告書の事例で、そこからネットや図書で調査した事や自分なりの考えで診断助言のシナリオを事前に作成し、中小企業の当事者とお会いしました。その場でできる助言は行いますが、終了後に持ち帰り新たな案が浮かぶ事も多く、それらも含めて報告書としていました。報告書の出来は、CaseByCaseで少しはお役に立てたかなと思う場合とあまりお役に立てなかったかなと思う場合が混在していました。自分以外の方だったらどのような助言をしたら、十人十色で全く同じ報告書になる事はないだろうなと思い、他の先生方の意見も訊いてみたいなと常々思っていました。

そんな折、月野木先生から協会内での自主活動をやるべきだというお話を聞き、すぐに他の方々の意見を聞ける勉強会を行いたいと思い、そこから具体的に進め始めました。

診断士として中小企業の皆様にお役立ちするためには、机上の理論だけではなく、多くの経験を積むことが必要だと思います。また、基本の考え方や理論は普遍的で不変のものかもしれませんが、それを具現化する実施の仕方は世の中の変化も踏まえて変化していく必要があるのではと考えています。様々な文献や記事等から知識を吸収する事は大事ですが、より多くの人の意見を聞けるディスカッションも非常に重要だと思います。ある一つの考えに凝り固まる危険性に警鐘を鳴らす事ができ、多様な考えから気づきをもらい、さらに新たな発想も生まれてくる可能性もあるからです。

事実、研究会の中では他の方からの意見を聞くことにより、「あの時の助言はあれでよかった」「そんな考え方があるのか、あの時のケースに適用したらこんな考え方もできたな」とたくさんの気づきをいただき、自分の幅を広げる事に役立っていると感じています。

今後も研究会を通じて、自分の知識見聞や視野を広げていくと共に、参加者の皆様に少しでもお役に立てれば、と考えております。

皆さま、初めまして。

2017 年度に入会しました山口 肇と申します。

現在は企業内診断士で、会社の人事異動で 2016 年 12 月に鹿児島(霧島市国分)に赴任しました。

診断士登録は 2012 年ですので昨年 4 月に初回更新したばかりで、これまでは千葉県協会に所属しておりました。出身地は福岡市、30 年前に今の会社に入社してからの勤務地は関東が中心で、鹿児島へは出張で何度か来た程度で土地勘はほとんどありません。

当地に赴任して約 1 年が経ったところで、自然に恵まれた環境で、美味しい食事と週末の温泉巡りで元気に楽しい日々を過ごしています。鹿児島県協会はアットホームな雰囲気の中で顔が見えるネットワークが大変素晴らしいと感じています。

コンサルタントスキル向上のために、本年は様々な協会の活動にどんどん参加したいと考えています。

諸先輩の皆さまのご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



入会の経緯と入会初年度の活動について（振返り）

新年、明けましておめでとうございます。「東園深水」といいます。昭和 30 年 2 月生まれで、今年の 2 月で満 63 歳となります。鹿児島県診断士協会へは平成 29 年度から入会いたしました。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、昨年 1 年を振り返ってみて、私の「入会に至った経緯」と「入会 1 年目の活動状況」について簡単にご報告させて戴きたいと思います。

1.入会の経緯

実をいうと診断士登録したのは、6 年前の平成 24 年 4 月です。なので、昨年は 1 回目の更新登録の年でありました。それまで、理論研修については、毎年受講しており更新条件をクリアしておりました。ところが、私自身、所謂企業内診断士で外部での企業診断実務の経験が全くありませんでした。

そういう訳で、鹿児島県診断士協会の田中会長に相談することと致しました。「企業内診断士の場合、診断実務報告書はどのように整理したらよろしいのでしょうか？」と・・・。

そうしたら、会長が色々とアドバイスを下さって、それをもとに、過去 5 年間に携わった企業内部の業務改善（食品衛生、食品表示、小売店舗運営など）を整理し報告書を作成し提出致しました。結果的に、無事に更新手続き

をクリアすることができました。(会長、有難うございました！！)

このような経緯で鹿児島県診断士協会との出会いが始まりまして、お世話になったこともあって、入会することに致しました。

2.初年度の活動状況

私は、現在、60歳まで勤務していた会社に引続き再雇用（フルタイム）で働いています。したがって、活動時間が限られてしまいます。そこで、初年度は、(1)誰かベテランの先生について補助をしながら、診断実務の経験を積むこと、(2)研修会などへは積極的に参加すること、を念頭に活動することに致しました。

それでは、以下に活動内容を簡単にご報告したいと思います。

(1)「M生花店」の経営改善計画策定支援の補助（6～12月、10回、信用保証協会）

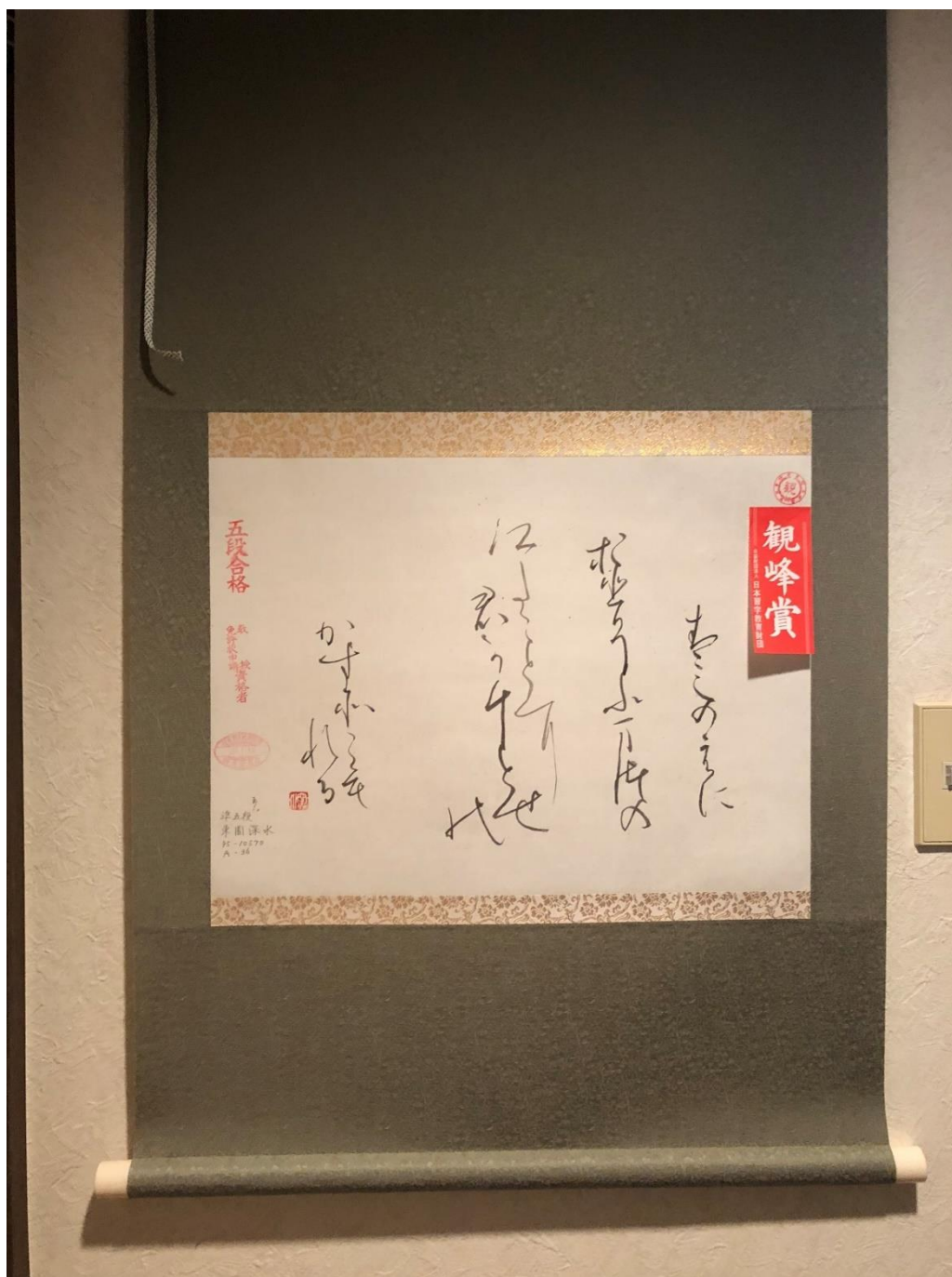
「ベテラン E先生」の承諾が得られたこともあり、先生のコンサル活動に帯同しながら診断実務を経験することができました。先生からは調査分析の進め方、改善計画書の作成方法、支援先の経営者や金融機関・信用保証協会との接し方など多くのことを学ぶことができ大変感謝しております（E先生、有難うございました。これからも宜しくお願いいたします）。また、財務分析において、「代表者勘定」、「中小企業特性」などという、目新しい言葉に触れることができたことも、印象的だったと思います。

(2)研修会などへの参加

- 5月 「県改善支援センター説明会」、「県診断士協会平成 29 年度通常総会」
- 6月 「九州経済産業局 支援パッケージ説明会」
- 7月 「第1回 支援・助言研究会」
- 8月 「中小企業診断士理論研修会」、「かごしま中小企業支援ネットワーク会議」
- 10月 「ものづくり補助金成果事例発表会」、「第2回 支援・助言研究会」
- 11月 「中小企業パワーアップトーク」
- 12月 「知財セミナー」、「金融庁の業務説明会」、「事業承継セミナー」
- 1月 「第3回 支援助言研究会」、「富士通エグゼクティブフォーラム」

3.最後に

以上で活動報告を終わりますが、協会に入会できてほんとうに良かったと思っています。今年はもう少し診断活動を充実しようと考えますので、皆さん今後ともよろしく願いいたします。それでは、「本年が皆様方にとって実りある良い年となることを祈念」しまして、筆を置くことと致します。



「住の江に生ひそふ松の枝ごとに君が千歳の数ぞこもれる」

月 野 木 勝 彦

どうせ通るのなら、陽気にと、一筆

【 夢中になって読んだ本 】

『九十歳。何がめでたい』(小学館 佐藤愛子)。私の母も好きだった佐藤愛子さん。買って、寝床の中で、クスクスと1人笑いをしました。著者のおおらかな気性に触れて、久しぶりに楽しい本でした。よそさまに薦めて、また、回し読み。あっという間に大ベストセラーに。

『不良品』(ソフトバンク文庫 宇梶剛士)。NHKラジオの午前中の番組「すっぴん」に呼ばれた著者。ラジオから流れてくる著者のシャイな感じ。昔は2~300人の名前を1回会っただけで覚えていたとか暴走族の総長だったとかというエピソードや『不良品』という著書の紹介などがありました。新刊本かなと思って買ったら、平成17年の発刊でした。一言でいえば、俠気の持ち主かなと、一気に読みました。

『危機にこそぼくらは甦る【新書版 ぼくらの真実】』(扶桑社新書 青山繁晴)。皇室、安保、国会活動を考えるバランスのとれた一書でした。

【 征韓論 】

『西郷隆盛伝』(至言社 勝田孫彌著)によれば、「西郷隆盛は、内部の革新と兵備の拡張とに尽力すると同時に、台湾、支那、朝鮮、満州、樺太の地に着目し、国家の基礎を確定し、国威を宣揚することを計った。内においては、士族や軍人の英気を外に洩らして、その潰裂を防ぎ、驕奢遊逸の風を一洗して、全国の人心を一致させようとした。外においては、国家宣揚の途を開こうとした。朝鮮は、1小国にすぎないが、1個の国体を有しているのであり、正理を踏み名義を正しくして、初めて問罪の師を発しなければならぬと考えていた」とあります。

南洲翁遺訓に、「偽りあざむくことをしないで、相手に筋のとあった道理を示し、はかりごとをしないで、正しい兵法をもって対応するというのは、これこそ英雄のすることである」という陳龍川の諸葛孔明論の語を示されて、大いに学んでこの境地に達したいものであるとあります。また、西郷隆盛の「朝鮮国に使いするの命を蒙る」の漢詩に、「いやしくも大命を奉じて行くからには、昔漢の蘇武が雪の日に守った美しい操に比すべき操を守り、唐の顔真卿が死後に残した芳しい名に似通った名を揚げねばならぬ」とあります。

鮫島志芽太氏は、征韓論に関して、西郷隆盛は、島津斉彬の東洋経綸の思想に大きな影響を受けたと説いておられました。山田準著『南洲百話』の中に「大陸経営の大識見」の項があり、西郷隆盛が太政大臣三条実美に「このままでは、いつまでも島国日本の形

体を脱することはできない。ヨーロッパの6倍もあるアジア大陸に足を踏み入れておかないと、後日大きな憂患にあう」と説いた旨の内閣記録があることが紹介されています。

これらのことから、日本の行末を確固たるものにしようとした西郷隆盛の精神が感得できるのではないしょうか。

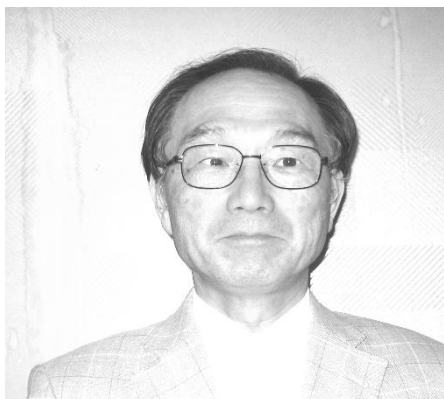
【 名もなき民の生きざま 】

NHKのE TV特集だったでしょうか、「^{ごくとも}獄友たちの日々」というドキュメントがありました。無実の罪で刑に服したSさんが、自分に降りかかった運命を受け入れて、自分の予期せぬ境遇に恨みを抱き続けることから脱して、刑務所での日々の生活を前向きに、例えば、トランペットの練習に励むなどして生き抜き、出所後は、自分と同じように無実の罪で監獄生活を送った獄友を精神的に支援していく活動をしているとのことでした。因縁であり、一切を受け入れて通るとは、口では言えますが、実践するとなれば困難極まりません。

また、同じくNHKのE TV特集で、「ひとの間 ある一軒屋に集う人々」というのがありました。不登校の少年や、例えば精神的に追い込まれた大人たちがいつでも集えるように、ある塾経営者が一軒屋を借りて、悩める人々に居場所を提供しているドキュメントでした。タテ割り行政では解決しない社会的事象に光を射しております。

世の中には、立派な方が多いなど、つくづく思われます。「一隅を照らす者、これすなわち国の宝なり」といわれますが、正に私ども一人ひとりのまごころが国の^{もと}基となると感じました。

日本の安寧と皆さまのご多幸をお祈りいたします。



XMind 活用のすすめ

福岡正人

早いもので、診断士登録から2年の歳月が過ぎました。

私は、今のところ診断士活動は副業段階であるため経験値が乏しい状況です。プロ診断士の世界を垣間見るほどに、第一線で活躍されている諸先輩と自身のレベルの違いを思い知らされ、その高低差に眩暈がするときさえあります。

ここ最近ビジネス書を読み漁り、セミナーにも積極的に参加するなど、一人前のプロ診断士を目指して必死で勉強している毎日です。2年前の診断士合格のときに、もうこれで勉強しなくてよいという安堵感に浸っていた自分にドロップキックをくらわせたいです。結局、この業界に足を踏み入れたが最後、死ぬまで勉強し続けたいといけなんでしょう。

このように自己研鑽には余念がないと自負しておりますが、最近あまりに多くの情報に触れすぎて記憶の整理整頓が出来ずストレスを感じる事が多くなってきました。当然、すべての情報を覚えておくのは無理な話です。むしろ完全に忘れてしまっていれば問題ないのかもしれませんが。記憶にないものは気にもならないですから。一番厄介なのは情報を中途半端に覚えてしまっていることです。出そうで出てこない記憶の糸を手繰り寄せることは非常にモヤモヤする作業です。私は脳みそが痒くなります。書籍やセミナー資料の束を読み返すのもかなりの労力です。

前置きが長くなりましたが、そんな私にうってつけのツールを見つけましたので皆様にもご紹介します。それは、**XMind** というものです。これは一言で言うとマインドマップの作成アプリです。マインドマップ自体はご存知の方が多いでしょう。(私は**XMind**を知るまでマインドマップ自体知りませんでしたけど。) **XMind** はネットで無料ダウンロード出来ますし、**YouTube** で操作方法なども閲覧出来ますので、ここでは詳細の説明は割愛します。ご興味のある方は検索してみてください。

それでは、私が **XMind** をどのように活用しているかを説明します。

先ず一番は、セミナーや書籍の要約版の作成です。**XMind** は操作性が良いので慣れてくればセミナーの最中にでも作成が可能です。そして情報がロジックツリー型に整理できるため漏れダブりの少ない **MECE** な要約が可能です。これは得にノウハウ習得を目的としたセミナーなどで効果的です。後々セミナー資料の束(まず資料自体を探すのが一苦勞)を読み返すのに比べて、1枚に纏められたマインドマップは抜群の視認性があり、情報の全体像から個々のキーワードまでが一目で把握出来ます。したがってより効率的なノウハウ習得が可能となります。

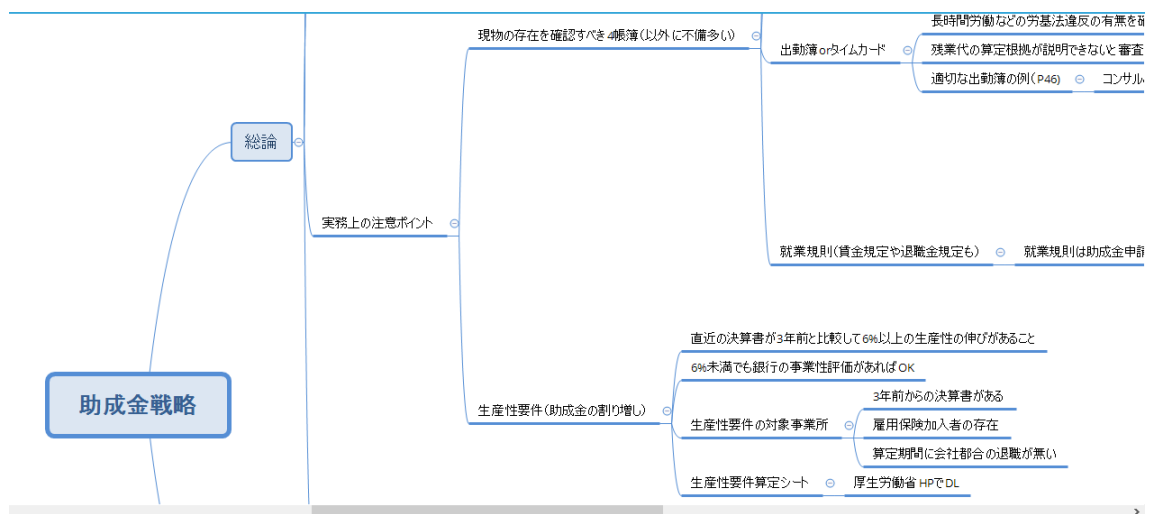
次に、最近はじめた活用方法は、支援先企業に対するヒアリング項目のリスト作成です。具体的には、まずはじめに **5W1H** などの基本の切口を設定します。**XMind** では、基本の切

口から発想できる項目を無限に派生させることが可能なので、単純に KJ 法などを用いるよりも論理的かつ効率的にヒアリング項目を広げていくことができます。

他にも、XMind には特性要因図に使えるフィッシュボーンチャートなどのフォーマットも用意されており、診断士の業務にはかなり有用なアプリであると考えます。

皆様も Xmind を活用されてみてはいかがでしょうか？

若輩者の私が諸先輩にこのようなご案内をするのは差し出がましいかもしれませんが、何かのお役にたてれば幸いです。



Xmind の一例

ついに開設！（一社）鹿児島県中小企業診断士協会 公式サイト

理事・HP運営委員長 瀬戸口 晴子

私ども（一社）鹿児島県中小企業診断士協会は、平成29年5月の理事会および総会での承認をもって、公式ホームページを正式に開設いたしました。全国の都道府県協会の中で、唯一サイトが無い状態から、ついに最初の一步を踏み出すことが出来ました。会員の皆さまには、2月の新年会・4月の全会員アンケート・5月の理事会・総会にて、随時、ご相談・ご確認を重ねて参りましたが、ご参加出来なかった県内外の会員の皆さまへのご報告&備忘録も兼ねて、以下、開設までの経緯をまとめておきたいと思います。

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

思い返せば、協会HP制作について、平成28年8月の理事会においてご提案させて頂き、はや1年半。当時、「公式サイト」が無い協会は、佐賀と鹿児島の2県の協会でした。10年ほど前、田中会長が地元シナプスのサービスを利用して、お独りで苦心して運営なさっていた一時期の様々なご苦勞も伺ってはありましたが、日頃の診断士活動において中小企業者に「IT化推進」を説く立場でありながら、独自サイトが無いというのは、いかにも“紺屋の白袴”でお恥ずかしい限り★「ブービーメーカーにだけはなりたくない！」という懸念もあって、HP開設の必要性を強く訴えました。（…が、平成28年末に佐賀がいきなりHP開設、いよいよ鹿児島だけになってしまいました。。）

ご提案した行きがかり上、思いがけず「先ず隗より始めよ」というマサカの展開になり、協会内に多くのITのプロがいらっしゃるにも関わらず、力不足・経験不足・素人同然の私メが委員長として準備委員会を立ち上げるお役目を仰せつかってしまいました。実行委メンバーには、今別府理事・森理事、更に、よろず支援拠点でITプロとしてご活躍中の向江会員にもご協力をお願いして「第1回HP準備委員会」を平成28年10月19日（火）に開催。他府県のサイトをすべてチェックしながら、私たちのHPの理想的なあり方を議論し、引き続き、メールやWEB、委員会で検討を重ねました。

大きな方針としては、以下の3点を決めました。

- ① スモールスタートとする（予算も専門スタッフも無い状態のため）
- ② 既存のHP作成サービスを活用して、効率的に作成・運用する
- ③ サイトを見に来る方々のニーズを満たす価値ある情報を掲載する
- ④ 土業の中で認知度の低い中小企業診断士や協会のご紹介やPRも重視

構成内容については、ブラッシュアップを重ねて、次のように決めました。

<鹿児島県中小企業診断士協会ホームページ構成>

- 【1】 HOME <https://www.shindan-kagoshima.com/>
協会のスケジュール・活動内容スナップなど
- 【2】 協会の概要 <https://www.shindan-kagoshima.com/gaiyou>
協会の沿革・会長ご挨拶・事務局連絡先・理事監事名簿
- 【3】 事業実績 <https://www.shindan-kagoshima.com/jisseki>
受託事業の一覧・中小企業診断士の専門分野一覧
- 【4】 会員紹介 <https://www.shindan-kagoshima.com/shoukai>
会員の氏名・専門分野・登録年・顔写真など（希望者のみ）目玉♪
- 【5】 リンク集 <https://www.shindan-kagoshima.com/link>
中小企業診断士および中小企業関連の多彩なリンク集
- 【6】 お問い合わせ <https://www.shindan-kagoshima.com/toiawase>
お問合せフォーム → 事務局（田中会長）および委員長（瀬戸口）へ転送
- 【7】 会員募集 <https://www.shindan-kagoshima.com/boshu>
協会 会員の資格と種類を明記して募集
- 【8】 特設ページ <https://www.shindan-kagoshima.com/blank>
※ 現在は、協会イベント特集

リリースを前に、会員各位に＜β版の公開＞および＜全員アンケート＞を行い、HPへの「個人名記載の希望の有無」や「掲載内容の原稿」「顔写真」ほか、ご意見・ご要望をお伺いました。また、久保会員に「個人情報保護ポリシー」掲載のアドバイスを頂きました。

ちなみに、ホームページ作成については、諸サービスを比較検討した結果、原則無料の「Wix」を利用することに決定。（最終的には、理事会・総会にご提案し、月額約1000円の利用料で、サイト内に広告の出ない&オリジナルドメインが使えるビジネスコースにランクアップしました。）向江委員にはサイト自体の初期設定・オリジナルドメインの登録など肝腎な部分で多大なご協力を頂きました。各ページ自体は、htmlが全く使えなくても（…実は私事、15年前にヒューマンアカデミー「WEBデザイナー」半年コースを通学修了したものの、簡便なBLOGサービスの登場でスキルを使わないまま完全忘却済み★）普段のWord感覚で簡単に利用できるユーザーインターフェースに感動しながら、突貫作業で作成しました。まさに、HPにマンパワーや経費を掛けられない中小企業の社長・社員にも、気軽にオススメ出来るサービスだと実感しました！

、サイト全体の構成・掲載内容など、色々なご意見もあるかと思いますが、平成29年は、ともあれ悲願だった協会HPを開設できたことを一里塚としたいと思います。ブラッシュアップやサイト更新・改善の為に協力頂ける方は、是非とも（HP準備委員会あらため）「HP運営委員会」のメンバーにお申し出いただきたいと思います。大歓迎会をいたします！委員長役の後任有志も熱烈募集中です！よろしくお願いいたします。

成功！「中小企業パワーアップトークKAGOSHIMA2017」

理事・実行委員長 瀬戸口 晴子

私ども（一社）鹿児島県中小企業診断士協会では＜中小企業診断士の日＞にちなんだ広報事業として、初めての試み＝公開トークイベント「中小企業 パワーアップトーク KAGOSHIMA2017」を企画、平成29年11月1日（水）に実施いたしました。当日は、会員有志にも運営のお手伝いをして頂き、多くの参加者にご来場頂き、盛況のうちに無事終了いたしました。参加出来なかった県内外の会員の皆さまへのご報告と備忘録も兼ねて、『平成29年度会報』に以下、概要をまとめておきたいと思います。

8月5日の理事会で議題としてあがり、昨年の事業（鹿児島商工会議所・県弁護士会との共催による「無料経営セミナー・無料相談会」）を検証しながら今年の実施方針について協議しました。以降は、実行委員会を設け、具体的な検討作業を重ねました。新たな試みをご提案した行きがかり上、瀬戸口が実行委員長を拝命。（一社）中小企業診断士協会から6月21日付で発表された「中小企業診断士の日」関連イベント開催要領（下記転載）を基本に、より私たちらしい地元鹿児島に適した、より効果的な事業のありかたを委員（月野木・今別府・森・瀬戸口 + 田中会長・浦島副会長）で模索・議論しました。

~~~~~＜ 開 催 要 領 ＞~~~~~

◆ **事業目的** 昭和23年11月4日、中小企業庁により「中小企業診断実施基本要領」が制定され、経営に関する専門家を活用する「中小企業診断制度」が発足した。そこで連合会本部及び47都道府県協会では、中小企業診断士の活躍の場を拡充し企業経営者、関係機関等に対し、幅広く中小企業診断士及び中小企業診断制度の理解を深めるため、本制度の発足日である11月4日を「中小企業診断士の日」と名付け、昨年度より全国的なPR活動を実施している。ついては、本年度も11月4日の前後一週間程度の期間において、以下の事業内容による新たな広報活動を展開することとする。

◆ **事業内容**（例）中小企業経営診断シンポジウム・無料経営相談会・中小企業向けセミナー・展示会へのブース出展・その他中小企業診断制度等の維持・発展に係る事業

◆ **マスコミの協力・活用** 上記の事業内容などをアピールするため、必要に応じ新聞社、テレビ局などに対して取材を依頼する。なお、連合会本部では、47都道府県協会より提出のあった開催計画の内容を踏まえて、マスコミへの記事掲載の働きかけを行うこととしている。また、連合会本部のホームページ上に各県協会の事業内容等を紹介する特設リンクを公開し、積極的な広報活動を図っていくこととする。

~~~~~

今年の私たちの方針として、① 従来型の「無料経営セミナー・相談会」とは違う新しい形のイベントに挑戦したい ② 中小企業対象とはいえ、社長・経営陣だけではなく



従業員や創業予定者、関連機関・支援機関の方など広く市民に関心を持っていただける事業としたい ③ 市民の参加しやすい場所・時間・形式としたい ④ 中小企業診断士という国家資格および協会の知名度・認知度・好感度アップに繋げたい ⑤ 限られた予算で最大の効果を出したい ⑥ 当協会の単独主催で開催したい というコンセンサスのもと、8月末までの3週間で計画を固めるべく突貫作業が始まりました。

その結果、開催場所としては、鹿児島市の中心繁華街：天文館のランドマーク的SC「マルヤガーデンズ」内のホールを会場とし、参加費無料で「地元の中小企業が元気になるような企業再生の実体験トーク」を現役社長&担当診断士ペア2組で実施、更に、診断士による活動実績や活用法、補助金情報など支援メニューのプレゼンテーション。終了後、有志で居酒屋に場を移して懇親会と、参加者の関心度に合わせ2段階の企画にしました。なにせ、それぞれに多忙な診断士諸氏。開催日時だけでも、理事全員の都合が良い日は1日も無く、最終的にはゲストの社長様のご都合を最優先し、唯一 参加可能と言われた11月1日(水)に決定いたしました。結果的には、キリの良い1並びでアピールもしやすくなり、中小企業関係者にも参加しやすい平日夕方開催となりました。

理事会からわずか16日で企画骨子を決めたのは、とにもかくにも「後援申請」の為でした。私の経験上、鹿児島県などは審査に一ヶ月近くかかる場合も多く、開催日から逆算して、チラシ・ポスターを印刷し十分な広報活動を行う為には、9月第1週までに各団体に申請する必要があると判断したためです。申請書は、各団体ごとに指定書式や申請条件の違いなどもあるため、手慣れた私がまとめて作成しましたが、実際の申請のためのご挨拶・ご説明のための訪問は、委員で手分けして短期間で作業を終えました。

勿論、後援を頂いたからと言っても名義上のことで、自治体や金融機関やマスコミが必ずしも無料で積極的に広報等協力して下さるとは限りませんが、とにかく本事業をフックに、この機会に多くの方々に私たちの存在や地道な地域貢献活動を知って頂きたい！という思いで、下記概要の通り、合計23団体に後援いただくことが出来ました。

- =====
- ◆ 行事名 中小企業パワーアップトークKAGOSHIMA2017
  - ◆ 日時 2017年11月1日(水)16:00~18:00 / 情報交換懇親会(有志)18:30~21:00
  - ◆ 場所 マルヤガーデンズ ガーデン7 ※ 参加無料・公式サイトから要申込
  - ◆ 主催 一般社団法人 鹿児島県中小企業診断士協会
  - ◆ 後援 鹿児島県・鹿児島市・鹿児島商工会議所・鹿児島県中小企業団体中央会・鹿児島県商工会連合会・鹿児島県信用保証協会・公益財団法人かごしま産業支援センター・九州財務局鹿児島財務事務所・鹿児島銀行・南日本銀行・鹿児島相互信用金庫・鹿児島信用金庫・商工中金・南日本新聞・朝日新聞社・NHK鹿児島放送局・MBC南日本放送・KTS鹿児島テレビ・KKB鹿児島放送・KYT鹿児島読売テレビ・エフエム鹿児島・鹿児島シティFM・FMぎんが
- =====



初開催するイベントの“プロモーション”という意味では、チラシ・ポスターにもこだわりました。特にデザインには凝りたくて、印刷自体を格安なWEB注文とする代わりに、実績のある商業デザイナーへ委託する為のデザイン料を捻出。よく見かけるセミナーチラシ的平凡なデザインから、数え切れないほどのオファーを出し十回以上の校正・ブラッシュアップを経て、右のような一瞬で目につくインパクトのあるデザインにたどり着きました。好みの問題もあり、先輩理事から驚かれたりしつつも、「船頭多くして～」の俚諺を支えに、私メの当初方針を貫徹させて頂きました。

経営革新 創業支援 ものづくり 補助金活用
販売促進 事業承継 6次産業化 IT活用 社員教育 事業再生 まちおこし

# 中小企業

# パワーアップトーク

## KAGOSHIMA 2017

11月4日は「中小企業診断士の日」です。昭和23年のこの日、中小企業庁により中小企業診断士制度が制定されました。これにちなんで、当協会は、鹿児島県下の中小企業を側面から支援するパートナーの立場から、企業の「事業拡大」・「経営改善」・「再生支援」・「各種補助金活用」などについて、経営者ご自身の成功事例・診断士の支援事例・活用例を気軽なカフェトークを通してご紹介し、地元中小企業の更なるパワーアップを目指します。

中小企業診断士の日 記念イベント

# 11.1

WED 16:00~18:00

**Maruyasu gardens**

マルヤガーデンズ ガーデン7 (7階)

鹿児島市興福町6-5

参加費無料・要申込 (先着60名)

**【対象】** 中小企業の経営者・幹部・従業員／創業希望者など

●**トークセッション** 困難を乗り越えて活躍する社長のトーク&質疑応答

**ゲスト** 有限会社 九面屋 代表取締役 鳥丸 秀樹 様  
 徳協精工株式会社 代表取締役 松下 順紀 様

※ カフェ形式で、お飲み物もご準備しておりますので、気軽にご参加ください。

診断士の活用事例・各種施策ご紹介 中小企業診断士協会 会員によるプレゼンテーション

■情報交換懇話会 時間：18:30 乾杯予定 (トークイベント終了後 移動)  
 (希望者のみ) 会費：3,500円・場所：天文館 (未定)

●**参加申し込み方法** 公式サイトよりお申し込みください。

<https://www.shindan-kagoshima.com/>

※登録いただく内容＝氏名・電話番号／住所・メールアドレス・資格参加の有無・業種業種別(選択)

※個人情報は、本イベントの運営のみに使用します。

●**主催・お問い合わせ先**

**(一社)鹿児島県中小企業診断士協会**

事務局：鹿児島市西田 2-20-26-401 TEL 090-2962-0436

sindankagoma@coda.ocn.ne.jp

●**後援**

鹿児島県・鹿児島市・鹿児島県商工会連合会・鹿児島県中小企業団体中央会・鹿児島県商工会連合会・鹿児島県信用保証協会  
 公益財団法人かごしま産業支援センター・九州財務局鹿児島財務事務所・鹿児島銀行・南日本銀行・鹿児島相互信用金庫  
 鹿児島信用金庫・商工中金・南日本新聞・朝日新聞社・NHK鹿児島放送局・MBC南日本放送・KTS鹿児島テレビ  
 KKB鹿児島放送・KYT鹿児島朝テレビ・エフエム鹿児島・鹿児島シティFM・FMぎんが

●**協賛**

鹿児島県・鹿児島市・鹿児島県商工会連合会・鹿児島県中小企業団体中央会・鹿児島県商工会連合会・鹿児島県信用保証協会  
 公益財団法人かごしま産業支援センター・九州財務局鹿児島財務事務所・鹿児島銀行・南日本銀行・鹿児島相互信用金庫  
 鹿児島信用金庫・商工中金・南日本新聞・朝日新聞社・NHK鹿児島放送局・MBC南日本放送・KTS鹿児島テレビ  
 KKB鹿児島放送・KYT鹿児島朝テレビ・エフエム鹿児島・鹿児島シティFM・FMぎんが

チラシ 10,000 枚は、後援各団体に事前にお届けしたほか、様々な公共施設にも配布・掲示、鹿児島市内(喜入地区除く) 6,000 世帯の「日経新聞」に＜折込広告＞もしました。また、開催 8 日前には、地元MBC南日本放送「城山スズメ」の＜電話でボンジョルノ＞コーナーに田中会長がラジオ生出演させていただき、診断士および協会の活動、そして本イベントのPRに 15 分ほど熱弁を振るわれました。また、地元紙「南日本新聞」および「朝日新聞」にもイベント紹介を掲載していただきました。IT活用を進める立場上、5 月に開設したばかりの鹿児島県協会公式サイトに、新たに＜イベントページ&申込みフォーム＞を設定し、すべてWEBで事前申込を受け付ける体制も突貫で整えました。

<https://www.shindan-kagoshima.com/>

果たしてイベント当日、快晴。私の素人司会ながら、会長が「県下の中小企業を側面から支援するパートナーの立場から、企業の事業拡大・経営改善・再生支援・各種補助金活用などについて知っていただけるよう、気軽に参加できるカフェトーク形式のイベントを企画した。本県の地域経済の更なる活性化・浮揚に貢献し続けたい。」と開会ご挨拶。



『企業再生トークセッション』として、ゲストに、鳥丸 秀樹 氏（有限会社 九面屋 代表取締役）および 松下 順紀 氏（樋脇精工株式会社 代表取締役）をお迎えし、支援を担当した月野木診断士・森診断士とともに計4名で、いかに大変な困難を乗り越えて今の成功に至ったのか経営者ご自身の経験談 および診断士の支援内容等を熱く具体的に語って頂きました。折しも、MBCテレビの大ヒットドラマ「陸王」・「下町ロケット」を彷彿とさせるような経営危機を乗り越えた両ものづくり社長のリアルな本音トークには、参加者も息を飲んで熱心に聴き入っているようでした。



また、第2部としては、診断士の立場から、事業計画策定の重要性や補助金等の具体的な活用例、企業支援例を今別府診断士が分かりやすくプレゼンテーションしました。

中小企業の経営者を中心に、従業員や支援機関・関係団体・創業希望者・学生など約50名が参加し、質疑応答のほか、ノートにメモを取る姿も垣間見られました。







カフェトークと銘打っただけに、「マルヤガーデンズ」最上階イタリアンレストランのパーティホールを兼ねた「ガーデン7」のオシャレ空間にあわせて（いわゆるスクール形式ではなく）テーブルの回りにイス4脚ずつセッティング。セルフサービスのコーヒー・ジュース・ウーロン茶とお菓子（九面屋名物「塩豆かるかん」ほか）を召し上がっていただきながら、ハードなお話を 気軽に聴いていただける雰囲気 연출しました。

トークイベント終了後は、天文館の居酒屋「一和」に場を移し、有志（参加費¥3500 実費負担）にて、ゲスト・参加者・診断士ら約30名で情報交換懇親会を開催しました。

宴会幹事を引き受けてくださった森診断士の仕切りで、先程まで見知らぬ同士だった参加者も、自己紹介コーナーの後、お互いに名刺交換する過程で、さらなる人脈や思いがけない御縁地縁がみつかるなど、様々に盛り上がり、引き続き、企業経営や販売促進策、支援内容・補助金活用などについて熱く語り合う良い機会となりました。





18:30乾杯から、21:00の中締めを経て、フト氣がつけば、最後の3人（私含む）は閉店23:30まで盛り上がってしまいました。（時間無制限で、食べ放題・飲み放題という素晴らしいお店にも深謝！）



フィードバック／PDCAのために、閉会後にお願いした『参加者アンケート』（有効回収 22）では、本イベントについて 96％が「大変よかった」「よかった」と回答し、自由回答欄でも「経営者のナマの声・苦労や実体験・本音が聴けた」点に、大いに満足・感動していただけたようでした。今後の意向として、多くの参加者から、「社長トーク」や「実用的なセミナー・勉強会」に期待が寄せられました。翌週、後援各社へ訪問あるいは郵送にて「後援御礼状」・「開催報告書」を提出し、締めといたしました。

<https://blogs.mbc.co.jp/kouen/310>

「診断士が主催するからには！」と、“マーケティング”にこだわって企画運営いたしましたが、とはいえ、毎年開催するには、主催者側にこそ相当なパワーが求められるなかなかディープなイベントとなりました。地域貢献プロボノ活動の一環として使命感だけで走り抜けた3ヶ月でしたが、ご多忙な実行委員各位に長時間割いて頂き、私自身も相当な睡眠負債を溜め込んでしまったのは事実です。今後は、協会の持つヒト・モノ・カネを考慮しつつ、本事業をこれからの活動のマイルストーンに出来れば、と思います。

最後になりましたが、参加者も主催者も満足度の高いイベントとして無事実現できたことを、実行委員長として理事会員各位・関係各位に深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

以 上



## サッカー三昧

浦島和衛

我々年寄りのサッカーのシーズン（主にリーグ戦）は4・2月である（3月は大学対抗OB戦とかラ・甲・鶴対抗戦などはあるが即製チームでの対戦となる）。昨シーズンの50試合出場に比べ、今シーズンは怪我が多くそこまでは出場できていない筈にも拘らず、50年以上のキャリアの中でも久々に印象深いシーズンとなった。

9/18のシルバーカップ（「敬老の日」に引っ掛けて「蹴ろう会」としてオーバー70が主役、我々60代の試合は前座扱い）で優勝したのは良かったが、翌週は伊勢まで出掛けて3試合。スケジュールが過密なので人が集まらず11人ギリギリでの遠征となった。1試合目で右足太腿肉離れを起こしたが交替がないのでそのまま続行して症状を悪化させた。2試合目も包帯で縛って出場したが殆ど走れず数合わせ（オトリにはなる）。3試合目は流石に途中から試合の終わったオーバー70の応援を貰った。

1ヶ月の休養（試合欠場）を経て10/29のオーバー40の試合で小手調べ。この試合は我がチームの人数不足で不戦敗となったため、他チームから加勢を貰ってフレンドリーマッチとなったので丁度良いリハビリとなった。翌週の11/4,5はオーバー60の日奈久大会。グラウンドが海岸ベリのため風が強い。1試合目、肉離れが完治していないので前半だけにして貰ったが、半ば過ぎ風に乘せて20m程の左足のループシュートを放ちチームの2点目となった（最終的には3・3の引分け）。2試合目も前半のみ出場。風の強い中、逆風を突いて私の右からのセンターリングを味方がヘディングで決めてくれてこれが決勝点となった（1・0、私のアシストであるがこれはヘディングを決めた我がチームメイトの手柄）。翌日の3試合目。前日より風が弱く、同じく前半のみの出場。1・1からの30m程のフリーキックを「俺に蹴らせろ」とバックから出て行って決めた（距離があったため壁が2人でアウトに掛けられれば右上隅が狙えると思って蹴ったらその通りになった）。こんなことは10年来ないので、このまま決勝点になってくれと祈った（前日の1試合目は後半追いつかれた）。そのまま2・1で勝ち、優勝となった（日奈久大会では初優勝）。翌週にこの大会のMVPは私であるとしてチームから優勝カップのレプリカを預かり、今保管している（喜びも一入）。

この後、肉離れを心配しながら2試合出場し、ほぼ完治した12/17オーバー60のダブルヘッダーがあった。1試合目、開始早々5分位にコーナーキックからこぼれてきたボールを右足ハーフボレーで右上隅に20m程の会心のシュートが決まった（これも10年振り位）。ところがこの後、FWからバックパスを貰い2点目を狙って思い切り振りかぶってシュートと思いきや、後ろから相手に足を入れられ思い切りボールならぬ足を蹴ってしまった。ファウルを取られ、右足首を痛めてそのまま退場（試合は2・0で勝利、2試合目は0・0）。チームはオーバー60リーグ3連覇を飾ったものの1ヵ月経っても腫れが残っている（相手の足も心配）。来シーズンはどんなことになるのやら・・・